

10月20・21日 合同研究例会（旧ヤマトの会）（奈良県天理市）の課題

国語の課題は、自分の担当学年の以下の教材の指定場面について、解釈と授業構想案を作成していただくこと。

学年	教材	指定場面（展開の核）
1年	ずうっと、ずっと、大すきだよ	ぼくだって、かなしくて たまらなかったけど、いくらか きもちが ら ぐだった。
2年	お手紙	がまくんが言いました。「とても、いいお手紙だ。」
3年	ちいちゃんのかげおくり	「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」
4年	ごんぎつね	その明るる日も、ごんは、くりを持って兵十のうちへ出かけました。
5年	大造じいさんとガン	が、なんと思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。
6年	やまなし	そうじゃない。あれはやまなしだ。流れていくぞ。ついていってみよう。

授業構想案 形式

※ この形式でまとめることが重要ではなく、このような内容で授業展開の意図が分かるものを作成できればよい。

ポイントは、内容の謎と表現の謎から、行動レベル・言葉レベルの問題をどうつくり、どうつなげて構造化するかを考えること。

1 解釈

ひろしは、お父さんに自分も中辛が食べられることを主張するが、お父さんはそのことを受け入れられないでいる。ひろしは、自分の主張をお父さんが受け入れてくれることを期待していた。しかし・・・、

2 授業構想

（例）

展開の核と問題	予想される反応	到達点	具体的手立て
でも、「そうかあ、ひろしも…」…と、なんだかこっちま で、うれしくなってきた。 ○なぜ、うれしくなってきたのか	1 お父さんに中辛を食べることを分かってもらえたから 2 もう子ども扱いされないと思っていたから 3 仲直りできそうだから	おとうさんに嫌気がさし、見限ってしまったひろしが、お父さんの姿をみてうれしくなってきたの	これが課題となる。ひろしがうれしくなってきた原因が、『「そうかあ、ひろしも…」…うなずくお父さんを見ている』の

<p>あきれた。うんざりした。 ○ひろしの期待は何だったのか</p>	<p>(主対立問題)</p> <p>① 「そうかあ…」にある ② うれしそうに…にある</p> <p>1 喜んでくれる 2 簡単に分かってもらえる</p> <p>以下略</p>	<p>は、よほどの原因がある。その原因は『「そうかあ、ひろしも…」…うなずくお父さんを見ている』の中にある。</p>	<p>中にあることには気づくだろう。この文の内容を考えていくが、それぞれの考えがどちらの部分(①「そうかあ…」②うれしそうに…)から生じるのかで整理・分類し、意見を対立させる。</p>
---	--	--	--